

藩政期に始まる薬学の伝統と誇りをいまに

金沢大学医薬保健研究域薬学系のルーツは、加賀藩が幕末の1867（慶応3）年に開設した卯辰山養生所舎密局にさかのぼります。以来150年、ふるさとにとどまらず国内外で活躍する優れた人材を輩出してきた伝統と誇りを胸に、いま新たな挑戦に臨む薬学系の取り組みを紹介します。

高峰讓吉の父が指導

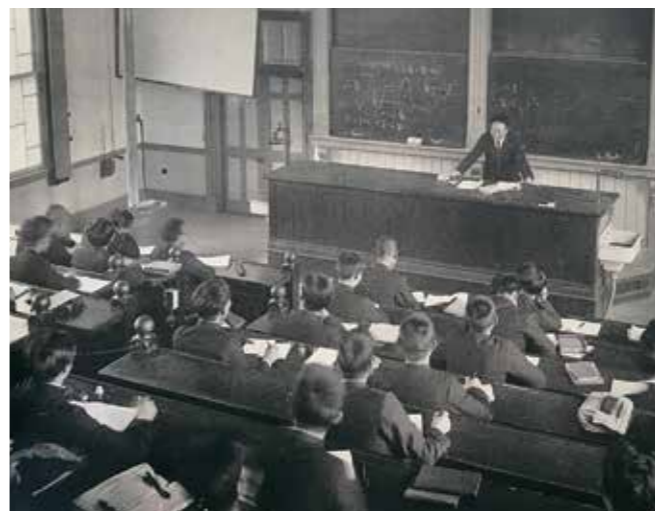
金沢における薬学校の始まりは加賀藩卯辰山養生所舎密局です。黒船来航などで揺れる幕末、蘭学や兵学を教えるために加賀藩が設立した「壯猶館」の医学部門と、金沢大学の創基となる1862（文久2）年設立の彦三種痘所をもとに誕生したのです。

卯辰山養生所には医学館、病院、製薬所（舎密局を併設）、薬草園があり、舎密局責任者にはタカジアスターゼ、アドレナリンを発見した

世界的な科学者・高峰讓吉の父の高峰元稔が

造のほか薬剤学、化学、植物学などを指導しました。

明治に入ると、新政府が奨励する西洋医学振興に沿って、加賀藩は養生所の教育



1929(昭和4)年に移転した宝町キャンパスでの戦前の授業風景

ご挨拶



金沢大学医薬保健研究域薬学系長

くにしま むねたか
国嶋 崇隆

今年、創立150周年の大きな節目を迎えることができましたのも、薬学教育と研究に対する地域の皆様の多大なるご理解とご支援のおかげと厚く感謝申し上げます。長足の進歩を遂げる医療にあって、「くすり」のありようも大きく変わっており、近年、薬学研究の役割がますます重要になっています。

私たちの使命が地域医療はもとより、人類の健康増進と福祉向上への貢献であることを改めて心に刻み、次世代の薬学を牽引する人材育成や最新の研究成果の創出と発信に、これまで以上に努力していく所存です。

加賀藩卯辰山養生所がルーツ



養生所で使う医薬品の製造と薬学人材の育成にあたった高峰元稔

機能を医学館として分離し、1870（明治3）年、金沢市

大手町に移転。オランダ医師のスロイスを招聘して教育と診療を担当させ、講義では当時、最先端の化学や薬剤学

を教えました。

医学館は廃藩置県の荒波を受け、所管や名称が何度も変わりましたが、76（同9）年石川県金沢医学所薬局学科として体系的な薬学教育が始まりました。89（同22）年、第四高等学校医学部薬学科が設立され、安定した薬学教育の土台が築かれました。その後、校名を幾度か改めながら、北陸における薬剤師育成と薬学研究の拠点として発展しました。

04年、宝町から角間へ

1929（昭和4）年には金沢市小立野に宝町キャンパスが完成し、レンガ校舎の広坂通りに別れを告げました。

太平洋戦争が終わり、49（同24）年に金沢大学がスタートし、



1960(昭和35)年代、施設整備が進み近代的な校舎に生まれ変わった宝町キャンパス

転しました。これは、次代を担う人材を育てるには、最新の施設・設備と教育環境が整った新キャンパスがふさわしいとのビジョンに基づくものです。また、06（同18）年には薬剤師教育6年制への移行に伴い、学科を6年制の薬学科、4年制の創薬科学科に改組し、ますます高度化、多様化する医療ニーズに応えられる教育・研究の殿堂として進化を続けています。



1892(明治25)年から1928(昭和3)年まで、金沢市広坂通りにキャンパスがあった当時の分析実習の様子

新たな時代に向かってさらに改革・進化

金沢大学薬学系の
ミッション

創立150周年を機に金沢大学医薬保健研究域薬学系は、研究の特色・強みを活かして未来の世界的研究拠点の形成、ならびに日本の薬学の将来を支える教育・研究者や指導者の養成を目指してさらに改革・進化します。

教育では、豊かな人間性、高い倫理観、幅広い教養を身につけた主導的な薬剤師(6年制薬学類)、人類の健康増進や医薬品の創製につながる先端的な基礎研究・応用研究分野で活躍する、高度で専門的な知識と技能を身につけた多様な人材(4年制創薬科学類)を養成することをミッションとします。

薬学系における 先端研究

金沢大学薬学系では、①創薬を目指した物質の創製と生体作用に関する薬学研究、②健康な長寿社会を目指した生体と外的因子との相互作用に関する薬学研究、③国際的観点から地域医療に貢献できる高度医療薬学研究の3つの主要研究課題を設定しています。

特に、薬学・毒性学分野は特色・強みとなっており、最近では日本学術振興会の頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラ

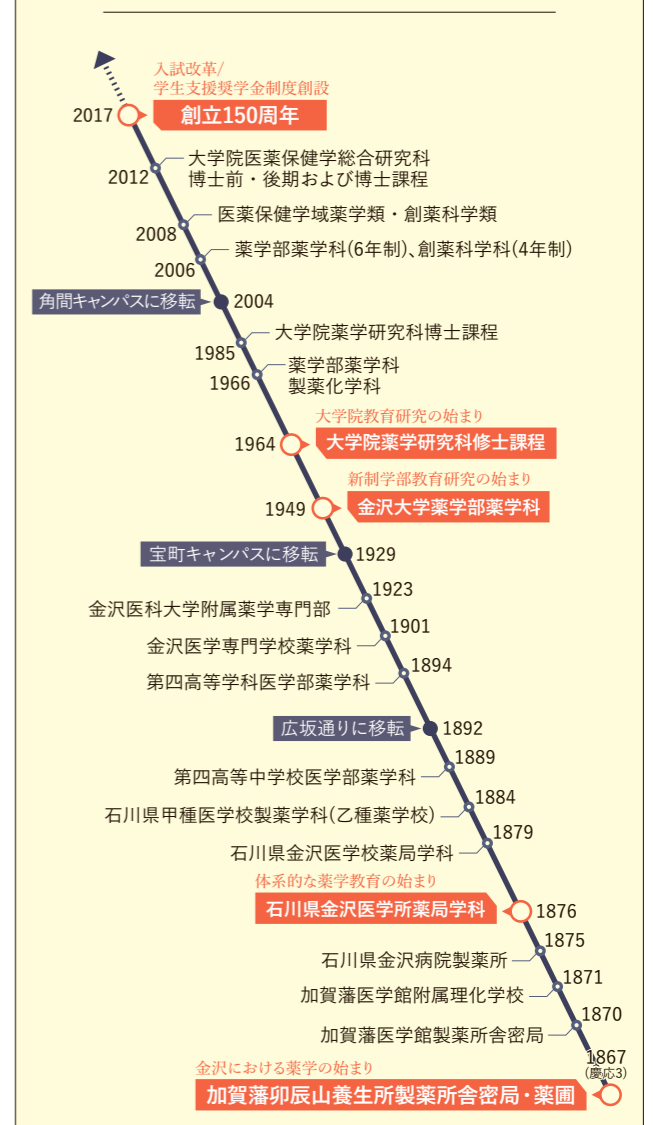


2004(平成16)年に移転した角間キャンパス



薬学系が教育研究を行う自然科学1号館は開放的な吹き抜けの大空間が特徴

金沢大学薬学系のあゆみ



ムにより、欧米研究機関への若手教員の長期派遣や海外研究者の招聘を推進し、研究拠点形成による金沢薬学ブランドの創出を目指しています。

また、新薬創出に有用な薬理標的探索、活性物質の合理的デザインと効率的合成、地域・国際社会の健康推進と長寿社会の実現に貢献できる疾病予防と薬物療法など、多岐にわたる先進研究をグローバルに展開しています。

入試改革と 学生支援奨学金制度創設

金沢大学医薬保健学域薬学類・創薬科学類では、150周年を機に、入試改革を断行し、学生支援奨学金制度を創設します。

入試改革の柱が、今年度から導入する新しいAO(アドミッション・オフィス)入試です。従来のAO入試とは異なり、薬学類(定員3名)、創薬科学

類(同6名)を分けて募集し、入学後、薬学類は博士課程4年を加えた10年、創薬科学類は博士前期・後期課程を加えた9年の一貫的教育を行います。

特に薬学類は、薬剤師教育6年制への移行後、国内で薬剤師資格と博士の学位の両方をもつ人材輩出の減少対策として、金沢大学が独自に取り組みものです。学生には修了後、薬学の教育・研究者や指

導者となり、次の世代の薬剤師や研究者を養成することが期待されます。

入試改革と並ぶ新たな取り組みが、安心して修学できる環境を整える学生支援奨学金制度の創設です。学生を取り巻く経済的環境が依然として厳しく、教育費の負担増から、大学院ドクターコース

への進学を躊躇したり断念したりする学生が少なくないからです。

同制度では、ドクターコース進学者に対して年間15万円の奨学金を給付するほか、一貫的教育を前提とする新AO入試入学者に対して大学院入学金を事実免除します。また、金沢大学は14(同26)年度に文部科学省からスーパーグローバル大学に指定され、在学中の海外留学を積極的に促し、費用面

でもバックアップしていきます。

金沢大学薬学系では、学生支援奨学金制度の創設にあたり広く寄附を呼びかけています。国嶋系長は「わが国の薬学の発展に不可欠なリーダー的人材を育てるという趣旨をご理解いただき、ぜひ多くの人にご協力願えれば幸いです」と話しています。

金沢大学薬学創立150周年 記念講演会
『暴れるがん細胞のアキレス腱を求めて』
日時 | 5月20日(土)午後4時~5時
会場 | ANAクラウンプラザホテル 金沢(金沢市昭和町16-3)
講師 | 清木 元治 先生(金沢大学招聘特任教授・東京大学名誉教授)
金沢大学薬学部製薬化学科昭和48年卒、平成28年春業績褒章受章

●お問い合わせ
金沢大学薬学創立150周年記念事業会事務局
〒920-1192 石川県金沢市角間町金沢大学医薬保健研究域薬学系内
TEL 076-234-4417
■寄付のご案内は、下記URLもしくはQRコードで
<http://www.p.kanazawa-u.ac.jp/~150kinen/infomation.html>

